

本市の持続可能性を脅かす課題（仮説）

課題① 人口バランスの適正化

- ・2040年頃までは人口増加、以降は減少に転じる
- ・緩やかな少子高齢化、人口増減の地域格差など人口構成上のアンバランスへの対応が必要
- ・若年女性人口の増加、ファミリー層の獲得が必要

課題② 居住環境の魅力増進

- ・中心市街地でのスポンジ化と郊外（用途地域外）でのスプロールが同時並行的に進行
- ・将来的には郊外住宅地のオールドタウン化が懸念
- ・中山間地や集落部の生活利便性の確保が必要
- ・住宅価格以外の住宅地の魅力づくりが必要（質の高い住宅）

課題③ 拠点の機能強化

- ・圏域中心都市の拠点に相応しい都市機能の充実・強化が必要
- ・サブ拠点、地域拠点における暮らしの維持（生活利便機能）
- ・幹線道路沿道の市街地の扱いについて留意が必要（無秩序な沿道立地・市街化抑制のため都市計画MPに即した土地利用コントロール等）

課題④ 公共施設の統廃合・適正配置

- ・人口動向、バランスを踏まえた効率的な配置、運営
- ・中心拠点の核となる新庁舎整備／サブ拠点・地域拠点機能の強化が必要

課題⑤ 公共交通の利用促進

- ・現状は市民の利用は少なく期待も薄い／将来的には高齢者のセーフティネットとしての役割を期待
- ・現在から利用促進を図りつつ路線の維持等が必要

課題⑥ 地域の活性化

- ・主力産業（製造業）を取り巻く経済動向に耐えうる都市の持続性（稼ぐ力）が必要
- ・歴史・文化・自然資源の保全活用、観光・交流振興等が必要

（注）現況分析等で上記仮説の裏付け作業を実施中

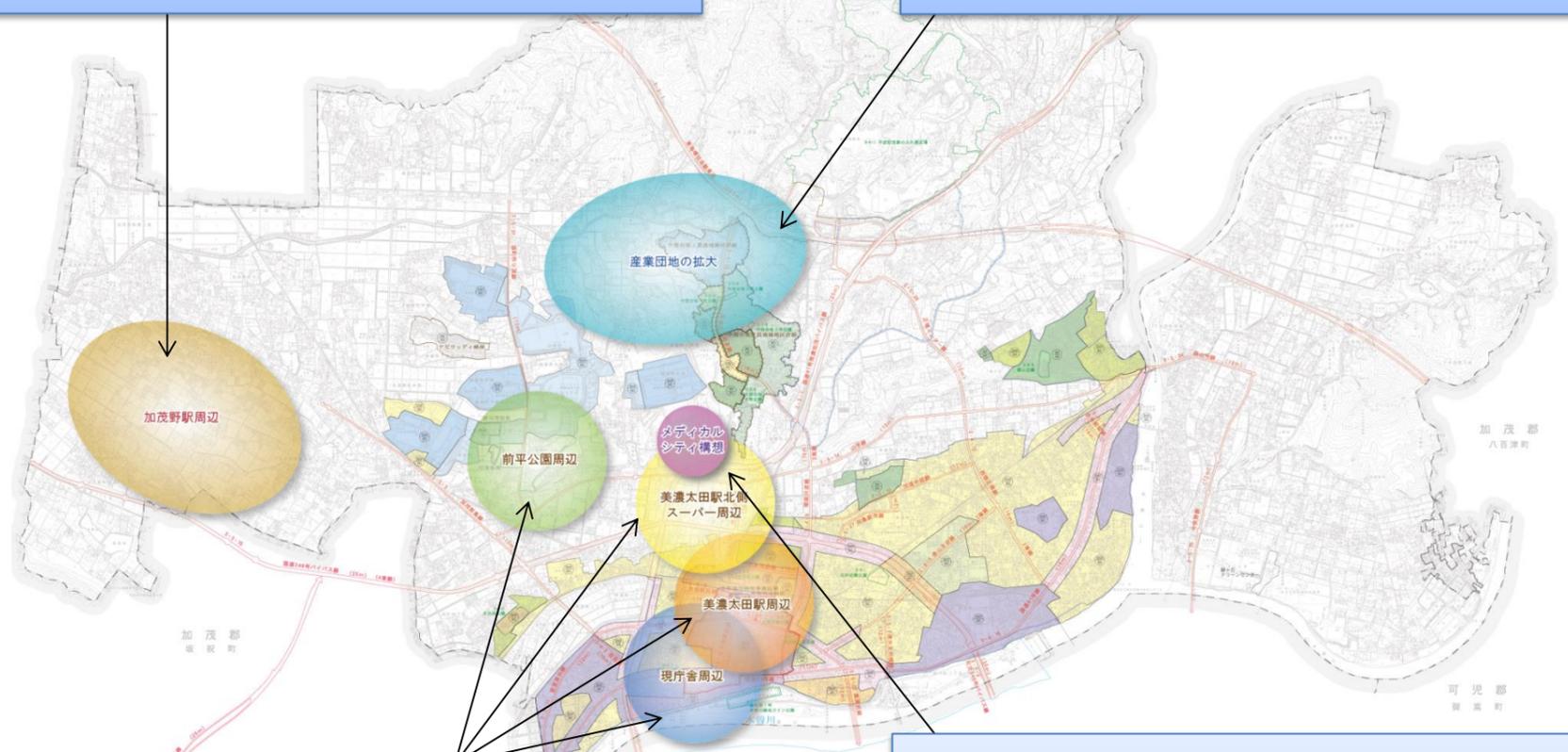
課題と関連して留意すべき事項

留意すべき事項② スプロール対策

- ・本市の人口増加の受け皿＝用途白地（加茂野駅周辺など）
- ・現在の人口増加基調に水を差すことなく、立地適正化計画によるコンパクトシティを推進する上で、当該エリアの土地利用誘導をどのように行っていくかが重要
- ⇒立地適正化計画における誘導施策や都市計画MPにおける土地利用方針等で検討予定

留意すべき事項④ 産業団地の拡張

- ・蜂屋台周辺の産業団地のさらなる拡張により、産業誘致を図っていききたい
- ・都市の持続性（稼ぐ力）を確保していく上でも重要であり都市計画MPのなかでどう位置づけていくかの検討が必要
- ⇒都市計画MPにおける土地利用方針等で検討予定



留意すべき事項① 新庁舎の整備

- ・2016年から新庁舎整備の検討を開始
- ・現在、まちづくりの観点（賑わい創出、利便性、防災性など）から候補地を4カ所に絞り込んでいる
- ・新庁舎を核とした拠点形成のあり方（全市的な都市機能の維持・誘導等）をどのように考えていくかが重要
- ⇒都市計画MPにおける都市構造や立地適正化計画における誘導区域・誘導施策等で検討予定

留意すべき事項③ メディカルシティ構想

- ・医療法人厚生会木沢記念病院が旧県生物研究所跡地周辺に「総合医療センター（仮）」を整備し、医療拠点となる「メディカルシティ構想」を計画中
- ・本市のまちづくりにおける新たな機能拠点としてどう位置づけていくかが重要
- ⇒都市計画MPにおける都市構造や土地利用方針等で検討予定

上記事項を踏まえながら、立地適正化計画（及び都市計画MP）のまちづくり方針〈ターゲット〉と誘導方針〈ストーリー〉の検討を進めていきます。